

小学生と保護者のための

子どもの安全・安心 ハンドブック

14 のポイント・ のヒント

公益財団法人 ベネッセこども基金



小学生と保護者のための

子どもの安全・安心ハンドブック

14 のポイント・ 8 のヒント

[目次]

子どもの安全・安心に向けて	01
I 子どもと学ぶ、安全・安心 14 のポイント	02
II 保護者にできる、 地域の安全・安心作り 8 のヒント	16

[企画制作]

公益財団法人 ベネッセこども基金

[監修]



武田 信彦

うさぎママのパトロール教室主宰、安全インストラクター。「楽しくて分かりやすい！」をモットーに、各世代に向けて講演やワークショップ、工作などを通して暮らしの知恵としての安全のコツを伝えている。



生重 幸恵

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長。教育界と産業界をつなぐ教育コーディネート、教育関連コンサルティング、人材育成、生涯学習の推進、家庭教育の充実支援等を行う。

デザイン／ Cue's inc.

イラスト／ 中小路ムツヨ

初版／ 2015年3月20日

2版／ 2015年4月20日

■本書の無断転載を禁じます。

子どもの安全・安心に向けて

～子どもが自らを守る力を伸ばし、安全に過ごせる地域づくりを～

子どもの安全・安心を守るために、地域の実態に合わせ、さまざまな取り組みが行われています。保護者・学校・地域が一体となって子どもを見守っている事例がある一方で、地域全体で子どもを見守ることが希薄になっている、地域の大人と子どもたちとの接点がなくなっている、という声も聞きます。

子どもとの関わりという点では、子どもの安全のために、大人が可能な限り危険を排除するようがんばっていたり、子どもの行動を厳しく規制したりと、大人が子どもを「保護」する、という側面の強いケースを伺うことも少なくありません。

「保護」はとても大切なことです。しかし、より大切なのは、子ども自身の「安全」への学び・成長が実現できることではないでしょうか。地域の大人に見守られる環境の中で、子ども自身が、地域の一員として、自分自身を守る力や社会的な力を伸ばしながら、安全・安心に過ごすことができるならば、保護者の皆様はもとより、子どもをめぐる学校・地域の皆様にとっても、そして何よりも子ども自身にとってすばらしいことではないでしょうか。

本ガイドブックは、その実現に向けた一歩として、安全教育の3つの領域「生活安全」「交通安全」「災害安全」のうち、「生活安全」、特に学校外・家庭外での安全・安心に焦点を絞り、

- ・子ども自身が自分を守るために、
保護者の方と一緒に学んでほしい安全・安心のポイント
 - ・保護者の方が、地域での活動をしていくうえでのヒント
- をまとめたものです。

お子さまの安全・安心を守るための一助となれば幸いです。

2015年4月

公益財団法人 ベネッセこども基金

I 子どもと学ぶ、安全・安心 14 のポイント

この章では、お子さまと保護者の方が一緒に確認し、学んでほしい安全・安心のためのポイントを紹介しています。下段の保護者の方向けの解説をお読みのうえ、上段をお子さまとお読みください。

ポイント

1

あなたは何よりも大切な存在

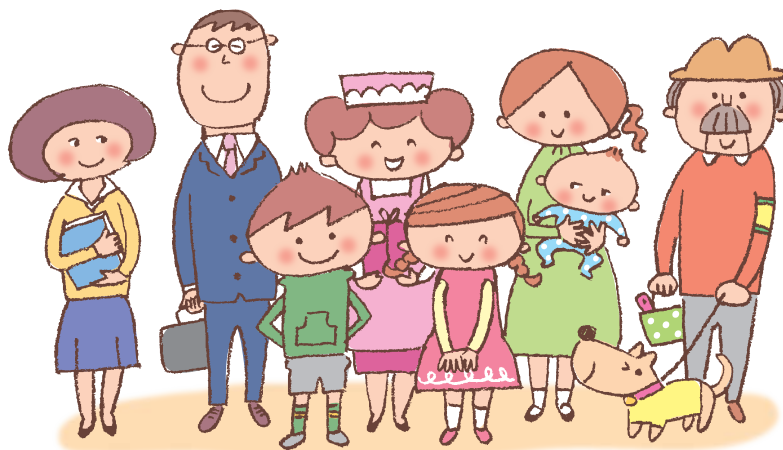
おうちの人や先生にとって、あなたはとても大切な存在です。

地域の人たちにとっても、あなたは宝です。

まわりの大人は、あなたが外で危険な目にあわないように見守っています。

その気持ちに感謝しながら、

自分で自分を守る力を身につけていきましょう。



（保護者の方へ）

お子さまが、保護者はもとより、先生方にとってもかけがえのない存在であり、地域にとっても大切な存在であることは言うまでもありません。お子さまには、自分のことを、大人たちが大事に思い、心配し、見守り、さまざまな取り組みをしてくれていること、そして自分に何か事故などがあると、まわりの大人たちはとても悲しいことを理解してほしいと思います。だからこそ、見守りへの感謝の気持ちをしっかりと持つとともに、自分でも自分を守る力をつけることが大切だということを、まず理解してほしいと思います。そして、お友達にとってもお子さまは大切な存在であることにも思いを馳せてほしいと思います。



ポイント

2

ひとりにならない

とうげ こうじゅく なら ごと い かせ
登下校や、塾や習い事への行き帰りなど、

おとな いっしょ じかん
大人と一緒にではない時間がありますね。

そういうとき、できるだけ、「ひとりにならない」ことが大切です。

なるべく、お友達と一緒に行動しましょう。

お友達と一緒にだと、おうちの人、より安心です。



（保護者の方へ）

登下校や塾などの行き帰り、放課後の遊びなど、子どもだけで行動する機会は少なくありません。子どもにとって、学び・育ちの機会であり、大切にしたい時間ですが、同時に、危険な時間でもあります。ことに、ひとりになってしまうと、助けを呼ぶ・危険を知らせることが難しくなります。お子さまには、極力ひとりにならないよう、なるべくお友達と一緒に行動することが安全のポイントであることを理解してほしいと思います。そして、自分がひとりにならない行動を取ることで、保護者の心配も減ることをわかってほしいと思います。ご家庭のルールとして、誰と・どこに・何時まで、など、お子さまの行動をある程度把握しておくことも大事です。



ポイント

3

もしひとりになったら

もしひとりで行動することになったら、

なるべく「人通りの多い道」を通りましょう。

そして「人通りの少ない道」では、いつも以上にまわりに気を配ります。

前・右・左を確認しながら、

そして、ときどき、後ろも確認しながら進みましょう。



（保護者の方へ）

できるだけ「ひとりにならない」ことが大切ですが、お子さまが、どうしてもひとりで行動する必要がある場合もあると思います。そうした時に、どの道を通って行くよりも安全か、あらかじめ、お子さまと話し合っておきましょう。どうしても人通りの少ない道を通る場合もあると思います。そうした時、「今、自分はひとりだ」という意識・「予防」の意識を持って、周囲の様子を確認しながら進んでいくよう心掛けてほしいと思います。交通事故の危険もありますから、後方にもときどき目を配って進んでほしいです。保護者の方が、日常的に周囲を確認するよう心がけると、自然とお子さまも習慣になっていきます。

ポイント

4

ひとりになりがちな場所

おうちのまわりの道、自転車置き場、
マンションの階段やエレベーターなど、
ひとりになりがちな場所があります。
まわりを注意深く見るようにしましょう。
ほかに、身のまわりで、ひとりになりがちな場所がないか、
おうちの人と話し合っておきましょう。



（保護者の方へ）

お友達と一緒に行動していたとしても、どうしてもひとりになりがちな場所があります。「危険がありうる場所」だということをまずは意識し、危険を予想しながら、注意深く行動できることが大切です。お子さまの生活の中で、注意すべき場所がないか、話し合ってみてください。

自宅の手前でひとりになる場合、次のようにするとより安全です。「鍵をあげる前に、付近に人がいないか確かめる」「家の人が不在でも大きな声で『ただいま』と言って入る」「エレベーターに他の人と乗る時は、ボタンのそばに、壁を背にして立つ」



ポイント
5

トイレに行きたくなったら

もしも、外でトイレに行きたくなったら、

安全なトイレを使いましょう。

児童館や図書館、病院、いつも通っている塾など、

自分が安心できる場所でトイレを借りましょう。



（保護者の方へ）

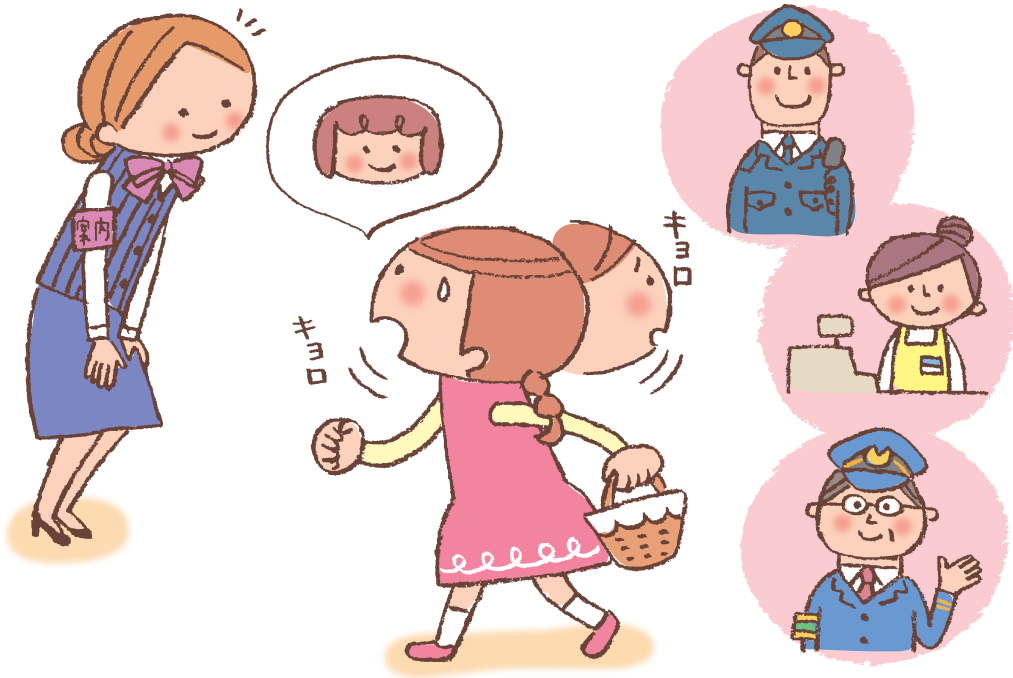
お父さまが外でトイレを使わなくてすむのがいちばんですが、どうしてもトイレに行く場面もあると思います。そうした際には、お父さまがなじみのある施設など、安心して使えるトイレを借りたいものです。公園の公衆トイレなど、管理している人がそばにいないトイレは、極力避けるようにしましょう。誰でも勝手に使えるトイレではなく、管理の方・勤務の方などに一声かけて使わせてもらうトイレが安心です。あらかじめ、お父さまが安心して使えるトイレを確認しておきましょう。そして、施設などでトイレを借りたら、きちんとお礼が言えるとよいですね。



ポイント
6

道に迷ったら

お友達と出かけて道がわからなくなったり、
 知らない街やショッピングセンターなどで
 おうちの人やお友達とはぐれてしまったら、
 大人の人に困っていることを伝えましょう。
 警察の人、お店の人、案内係の人、駅員さんなどを探しましょう。



（保護者の方へ）

普段の通学路でお子さまが道に迷うことはないと思いますが、出かけた先で道に迷ったり、はぐれたりすることがあるかもしれません。そうした時には、あわてずに、大人に助けを求めるようにしたいものです。街中であれば、警察官や駅員、お店の人などに、レジャー施設やショッピングセンターであれば、スタッフ、案内係、お店の人、警備員など、「どういう人か」がはっきりしている人に、早く、困っていることを伝えましょう。自分で解決しようとして、かえってより困った状況に陥ることは、珍しくありません。大人の力を借りることは、お子さまが「自分で困りごとを解決する」ための大切な知恵であり、決して恥ずかしいことではありません。



ポイント

7

まちひと 街の人とのごあいさつ

とうげこうのときやおうちの人と出かけるとき、
ちいきのいろいろな人と出会います。

「おはようございます」「こんにちは」と元気よくあいさつしましょう。
あいさつをすることで、地域の大人とのきずなが深まります。



（保護者の方へ）

地域の方は、日常生活の中で、あるいは、通学路を見守るボランティアとして子どもたちを見守っています。その思いにこたえ、地域の方との関係を築いていくうえで、しっかりと挨拶を交わすことが大切です。大人に挨拶するのは恥ずかしいかもしれませんが、挨拶を交わすことは、地域の方にとってとてもうれしいことですし、お子さまにとっても地域の一員としての気持ちが芽生える大事なコミュニケーションだということを、わかってほしいと思います。また、挨拶が交わされることで、地域の見守りの力が増し、犯罪の抑止にも効果があります。

保護者の方も、進んで挨拶することで、お子さまも自然に挨拶ができるようになります。



ポイント
8

「変だへんな」と思おもったら、 きっぱり断ことわる

「あれ？ ちょへんっと変だへんな？」と思おもうようなことを言いう人ひとには注ちゅう意い。
名な前まえをしつこく聞きかれる、写しゃ真しんを撮とりたがる、
「一いっ緒しょに子こ猫ねこを探さがして」、「ゲげームームがあるよ」…など。
そんなときは、「できません」と、きっぱり断ことわりましょう。



（保護者の方へ）

「あやしい人に注意を」と言われても、あやしい人が、必ずしも一見してわかるわけではありません。また、話しかけてくる人が、すべて「あやしい」わけでもありません。誰であれ、挨拶程度のやりとりを交わすのは自然なことです。しかし、名前や住所をしつこく聞く、ネコと一緒に探して・ゲームをしよう、などと子どもの同情や興味を引くなど、少しでも「変だへんな」と思ったら、勇気を持って断ることが大切です。判断に迷ったら、断ってかまいません。自分の安全を守るために断ることは、決して、恥ずかしいこと、失礼なことではありません。「できません」「いやです」など、短い言葉できっぱりと断りましょう。断り方を、お子さまと確認しておくことが大切です。



ポイント

9

「こわい」と思ったら、逃げる

あなたをしつこく誘ったり、すぐそばをついてきたり、

体に触ろうとしたり、手をつかもうとしたら、

「すぐに逃げる」ことが何より大事。

安全な、助けてくれる大人のいるところまでダッシュしましょう。

そして、大人やおうちの人に何があったかをすぐに伝えましょう。



（保護者の方へ）

残念ながら、犯罪・いたずらなどを目的に子どもに声をかけてくる人がいるのは事実です。ポイント8のように、まずは誘いに乗らずしっかり断ることが大切ですが、さらにしつこく付きまったり、体に触れようとするなど危険を感じたら、お子さまは、とにかく安全な場所まで「逃げる」ことが大事です。お子さまが、相手をやっつけようとかかっていったりすることはとても危険ですので、決して戦おうと思ったりしないよう、しっかり確認をしておきましょう。危険があった際には、おうちの方は、起こったことをしっかりと聞いて、警察や学校に知らせ、対策につなげていただければと思います。



ポイント

10

助けを求める

危険を感じたら、大きな声で助けを求めることも重要です。

無理に「助けて」と叫ばなくても、

「アーッ」でも「オーッ」でも「ワーッ」でも、

出しやすい声でOKです。

まわりに迷惑がかからないところで、練習しておきましょう。



（保護者の方へ）

子どもが大きな声で助けを求めることで、誰かに気づいてもらいやすくなりますし、相手が声に驚いて逃げるスキができる、逃げる勇気がわく、などの効果も考えられます。しかし、怖い目にあった時、なかなか大きな声が出せないものです。お子さまが、とっさの時に声が出せるように、ぜひ練習しておくことをお勧めします。



ポイント

11

ぼうはん じょうず つか 防犯ブザーを上手に使う

自分で大きな声を出す代わりにするのが「防犯ブザー」。

もしものときのために、すぐに手が届く場所につけておきましょう。

危険を感じたら、ブザーを鳴らし、すぐに逃げましょう。



（保護者の方へ）

防犯ブザーには、「大声」同様、「まわりに危険を知らせる」「逃げるためのスキをつくる」という役割があります。お子さまが、必要な時にすぐに鳴らせるよう、スカートやズボンのつりひもやランドセルなど、すぐに手が届く場所につけておきましょう。登下校時だけでなく、出かける時にはいつも身につけるようにしましょう。そして、いざ、という時のために、防犯ブザーの使い方を練習しておきましょう。定期的に、電池は切れていないか、ブザーはきちんと鳴るか、を確認することも重要です。



ポイント

12

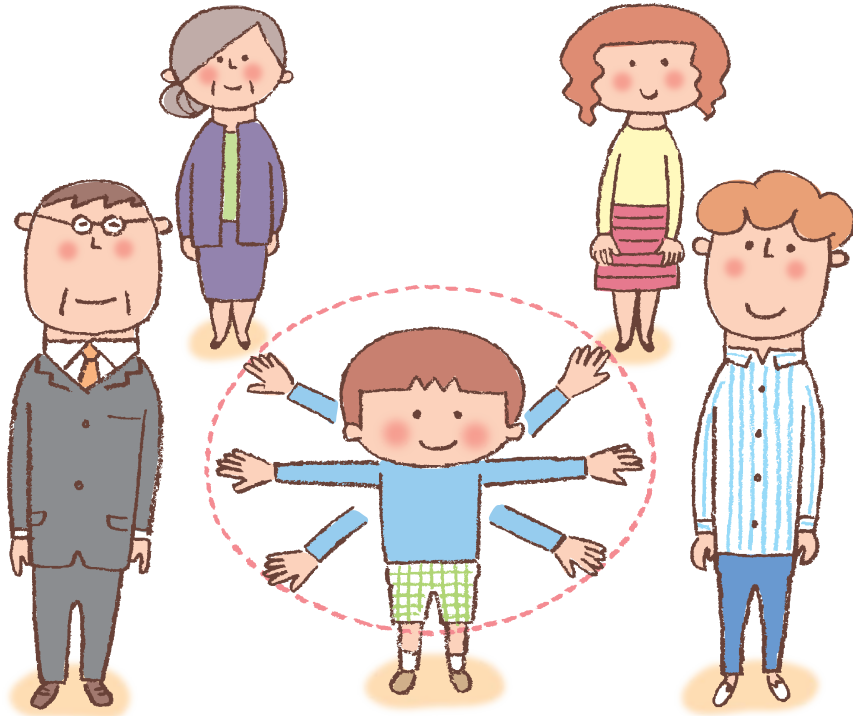
自分を守る安全な空間

両腕を横に伸ばしてグルッと一周してみましょう。

これが、自分を守ることができる大切な空間です。

知らない人に声をかけられたり、お話をするときには、

それ以上の距離をしっかりととりましょう。



（保護者の方へ）

急に触られたり、つかまれたりしないように、知らない人とコミュニケーションする時には、一定以上の距離を保つことが大切です。お子さまにもわかりやすい目安として、両腕を横に伸ばしてグルッと一周、と書きましたが、ぜひ、どのくらい離れると触られない・つかまれないか、おうちの方とシミュレーションをして、感覚をつかんでいただければと思います。



ポイント

13

逃げ込む場所を確認しておく

いざというときに逃げ込める場所を、
おうちの人と確認しておきましょう。
そういう場所がないときには、商店街など、
人通りが多い方向に逃げましょう。



保護者の方へ

地域で、緊急時に逃げ込める場所はどこか、お子さまと確認しておきましょう。学校、児童館、病院、商店などは逃げ込みやすい場所です。地域によっては、「子ども110番の家」のステッカーの貼ってあるお宅があると思います。「子ども110番の家」も、いざという時に逃げ込める場所です。逃げ込める場所は、実際にお子さまと歩いて、場所を確認しておくことが大事です。地域によっては、ボタンを押すと非常ベルが鳴り、警察とすぐに話せる「スーパー防犯灯」が設置されています。通学路などに設置されていたら、使い方を確認しておくといよいでしょう。

街の中にある「安全の力」をつかんでおくことが大切です。



ポイント
14

あそ なか
遊びの中で、
じ ぶん まも ちから たか
「自分を守る力」を高めよう

からだ こえ つか あそ
体や声を使った遊びは、
じ ぶん まも ちから たか
自分を守る力を高めるトレーニングになります。
「よく見る」「よく聞く」「逃げる」「大きな声を出す」「伝える」…
あそ なか ちから
遊びの中で、こんな力をつけていきましょう。



保護者の方へ

体や声を使った遊びを通して、お子さまが「自分を守る力」を高めることができます。予防としての「よく見る」「よく聞く」力、何かあった際の「逃げる」「大声を出す」「伝える」力、などです。遊びの中で、周囲を観察したり、後ろを気にしたり、相手や周りとの距離感をつかんだり、逃げたり、叫んだりすることが、お子さまの安全に役立つ力を高めてくれます。お子さま同士だけでなく、おうちでもお子さまと取り組まれてはいかがでしょうか。

また、「遊び」ではありませんが、安全への意識を高く保つ上で、学校で学んだ安全の標語など（例えば、「いかのおすし（いかない・のらない・おおごえを出す・すぐにげる・しらせる）」）を、繰り返し確認することも意味があります。学校・地域により学ぶ標語も異なると思いますので、学ばれたものを、ときどきクイズのようにお子さまに出題することをお勧めします。

安全の力を高めるために、ここまでの14のポイントも、ぜひときどき繰り返してご確認ください。

Ⅱ 保護者にできる、 地域の安全・安心作り 8 のヒント

この章では、保護者の方が、地域の安全・安心作りの活動を始める・活性化させるための考え方や方法を紹介します。保護者のみなさんひとりひとりが活動していくことで、地域全体を巻き込んだ活動につながっていきます。



「みんなで」が大切

子どもの安全・安心のための活動では、一部のPTAの委員の方だけでなく、保護者全員が参画していくことがとても大切です。PTAの委員会や、定例のパトロールなどに参加できない保護者の方も、例えばお買い物時、通勤・帰宅時、休日のお出かけの際などに、共通のバッジや腕章、自転車用のプレートなどをつけることで、地域の、子どもの

安全・安心への目配りはぐっと厚くなります。

学校・地域運営委員会・自治会などを通じて、地域内で賛同される方にも、バッジなどをつけていただけると、地域ぐるみの活動となっていきます。「大人の目が光っている」ほど、安全・安心につながりますので、ぜひ地域の方の力もお借りしましょう。



ヒント

2

地域について知る

授業の一環として「安全マップ」「防犯マップ」などを作るケースも増えています。学区のどこに危険な場所があるか、警察・交番や「子ども110番の家」、児童館や公民館、お店など、いざという時に逃げ込めるのはどこか、「スーパー防犯灯」はあるか、そういう情報を、保護者もしっかりと理解し、お子さまと確認しておきましょう。

地図を見るだけでなく、実際に現地を目で見て確かめておくことが大切です。そして、地域の様子は変化していきますから、保護者が適宜情報を持ち寄って、情報を更新していくことも重要です。



ヒント

3

あいさつのある街作り



登下校時などに、子どもが地域の方や見守りのボランティアの方と挨拶を交わすことは、地域の連携を強めると同時に、犯罪の抑止にもつながります。地域ぐるみで子どもの安全・安心に取り組んでいる地域では、子どもを見守る目が多いのでつけているすきが少なく、目撃される可能性も高いため、犯罪が起こりにくくなります。

子どもの中には、人見知りや恥ずかしがりやで挨拶ができない子もいると思いますが、時間をかけて、子どもたちが自然に慣れてくれるのを待つ姿勢で臨みたいところです。

子どもがきちんと挨拶ができるように、保護者自身も日常的に挨拶を心掛けましょう。

ヒント

4

グループでのパトロール

PTAや地域の方による防犯パトロールは盛んに行われています。パトロールによって、安全意識や知識が高まり、地域の連携やつながりも増え、犯罪や事故が発生しにくい環境が作られています。

バッジや腕章などで「パトロール」中であることがわかるようにすることで、地域ぐるみで安全活動をしていることがわかり、子どもや地域の方にとっての安心面の効果、犯罪行為の抑制につながります。未就学児を持つ保護者の方の安心感など、パトロールは、している方が思う以上の効果があるとされています。

「防犯マップ」などをもとに、学区内で、事故や事件が発生しやすい場所をパトロール

する際には、安全のために、グループで行うのが望ましいです。吸殻やライターなど、子どもに触れさせたくないものは片づけていきましょう。また、公園内の死角を生んでいる伸びた植栽など、手を入れることで危険が減らせるようなケースは、管理者である市町村などに要望を出していくことも大切です。

なお、パトロールは、直接犯罪を解決するものではありません。事件や事故を発見したら、すぐに警察や消防に通報してください。決して自分たちで解決しようとしなことが大事です。

ちなみに、「110番」するほどではないけれど気になることがある場合の相談先として、警察の相談ダイヤルがあります(#9110番)。





さまざまなパトロール・見守り

PTAや地域のグループでのパトロール以外にも、さまざまなパトロール・見守りの方法があります。ライフスタイルに合わせ、無理なく行うことができます。

自転車で出かける際に「パトロール中」のプレートをつけて、気になることがないか注意する。愛犬の散歩の時にバッジ、腕章などを付け、パトロールを兼ねる（「わんわんパトロール」）。

お買い物など、出かける際にバッジ、腕章などを付けて、周囲に気を配る。通勤時・帰宅時にバッジ、腕章などを付けて、気を配る。

いずれの場合も、バッジや腕章、自転車のプレートなどで、「パトロール・見守りをしてい

るぞ」「地域全体で見守っているぞ」とアピールすることで、より安全・安心につながります。

自主防犯活動の一つとして、「青色回転灯」を装備した自動車（通称「青パト」）でのパトロールもあります。回転灯が目立つこともあり、防犯の効果があると言われています。専用車両だけではなく、個人保有の車両に着脱可能な「青色回転灯」を装備してパトロールすることもできます。

「団体」として、警察署への申請が必要ですが、地域での継続的な活動の選択肢の一つと言えます。



つけてみたいバッジ、 腕章、プレートを作ろう

パトロール・見守りは、子どもを守る真摯な活動ですが、子どもたちや地域の方にとってより親しみやすく、保護者にとってもより楽しく取り組めたら、活動はより活発に続いていくのではないのでしょうか。

そのための一つのアイデアとして、パトロール・見守りの時につける、バッジや腕章、プレートなどを、自分たちでデザインして作ることを提案します。市販品の腕章などは、視認性など、使い勝手も考慮されているものが多いのですが、当然ながら、実用性重視で、子

もにとって親しみが持てるデザインのものはいくつはありません。

自分たちがつけたいおしゃれで楽しいデザイン、子どもにわかりやすく、目にした保護者の方がつけてみたいくなるデザイン、地域・学区の特徴のあるデザイン…保護者の方が、自分たちのものとして作ることで、きっとパトロール・見守り活動にもはずみが出ると考えます。このバッジや腕章を、保護者の方だけでなく、地域の方にも身につけていただき、地域ぐるみでの活動にしていきたいところです。



ヒント

7

ワークショップ・セミナー・講演会など、外部の力を借りる

警察などの行政機関はもとより、子どもの安全・安心のために活動している団体・企業は少なくありません。

そういった外部の方の力を借りることで、子ども・保護者・地域の方の、安全・安心の意識・知識をいっきに高めたり、保護者・地域の活動をレベルアップすることにつながります。

学校の教育活動として行ったり、放課後や土曜日、長期休暇中の活動として行ったりと、さまざまなケースが考えられます。

防犯や防災に加え、子どもにも保護者にも日常的な「自転車の運転」については、お子さまも保護者も「被害者」だけでなく「加害者」に

なる可能性もあるので、ぜひ定期的に講習を受けて、安全な運転を行いたいものです。



ヒント

8

自分の子どもが卒業しても

ご自身のお子さまが小学校を卒業すると、小学校の活動との関わりはなくなる、という方がほとんどではないかと思えます。

お子さまが卒業されたら、保護者の方は、今度は、PTAの活動を見守り、PTAと一緒に地域の安全・安心を守る、地域の一員として、活動に参画をしていただければと思います。

そして、お子さまは、中学生・高校生として、地域の小さな子どもたちを見守ってほしいと思います。

年々、地域の中で活動する方が増えていくことで、より安全・安心な地域を作っていくのではないのでしょうか。

地域の安全・安心は、「みんな」で作る…その意識がとても大切です。



【ベネッセこども基金】

未来ある子どもたちが安心して学習に取り組める環境のもとで自らの可能性を広げられる社会を目指し、2014年10月31日に設立されました。子どもたちが自ら学び伸びようとする力が十分に発揮できるように、安心・安全な環境づくりや多様な学びの機会の提供に、長期的・継続的に取り組めます。

〈こども基金の活動の柱〉

- ◆子どもの安心・安全を守るための活動
- ◆経済的困難を抱える子どもの学習の支援
- ◆重い病気や障がいを抱える子どもの学習の支援
- ◆グローバル社会を生きる子どもの学び支援 など

本冊子は「子どもの安心・安全を守るための活動」の一環として作成しました。

公益財団法人 ベネッセこども基金

〒163-0416 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビルディング

03-5320-3504(月～金10:00～17:00 *祝日・年末年始除く)

<http://benesse-kodomokikin.jp/>

